

シリーズ みんなで始める SDGs ④



働き方の見直しもSDGsの取り組みの1つです

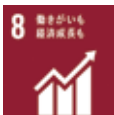
働き方の見直しもSDGsの取り組みの1つです。人間的にいい仕事(ディーセント・ワーク)の重要性が高まっています。持続可能な経済成長のためには、雇用創出や起業のほか「ディ

最近、SDGs(エスディージーズ)という言葉をよく耳にしますが「意味が分からない」「私には関係なさそう」という人も多いと思います。実は、SDGsと私たちの生活は密接に関係しています。前号に引き続きSDGsの取り組みなどを紹介します。

途上国では、失業率の高さとともに約1億5千万人にのぼる児童労働が問題となっています。日本では、長時間労働などを強いるブラック企業が社会問題化し、働き方改革法が制定されるなど、働きがいがある労働者の権利が守られる、人間らしい仕事(ディーセント・ワーク)の重要性が高まっています。持続可能な経済成長のためには、雇用創出や起業のほか「ディ

ゴール8

働きがいも経済成長も



「セント・ワーク」がキーワードです。

■町の主な取り組み

職員の「ノー残業デー」推進、やまだ創業サポート事業など

■地域・個人で実践できること
・働き方を見直し、ワークライフバランスを意識する

ゴール9

産業と技術革新の基盤をつくろう



持続可能な産業発展には、水道・電気・ガス・交通・インターネットといった基盤整備が不可欠で、自然災害が多発する日

※1月1日号に続く

◆問い合わせ先 町政策企画課

企画調整係(☎82-3111 内線372)へどうぞ。

■町の主な取り組み
マイナナンバーカードの普及促進、道路メンテナンス事業など

■地域・個人で実践できること
・身近なインフラの仕組みを理解する

・災害復興事業への募金に協力する



運搬用いけすに稚魚を移す作業を行う三陸やまだ漁協の役職員



伝作漁場付近に設置された2基の養殖いけす

三陸やまだ漁協

三陸やまだ漁業協同組合(生駒利治組合長)では、秋サケの記録的な不漁が続く中、「つくり育てる漁業」で漁協経営の安定化と新たな特産品の生産を目的に、山田湾でのトラウトサーモンの海面養殖に乗り出しました。令和5年度からの事業化を視野に入れ、本年度から2カ年は試験期間として実証実験を行い、採算性や漁場環境への影響

などを検証していきます。11月1日には、鋼製で1辺9呎の八角形、直径約20呎の養殖用いけす2基が岸から約300呎地点にある伝作漁場付近に置かれました。試験養殖される稚魚は、内陸の内水面養殖施設で飼育され、体長約25^{センチ}、重さ400^{グラム}。初水揚げが予定される来年3月には、2^基3^基の大きさに育てる計画です。稚魚の投

入作業は、11月12日から15日にかけて行われ、山田魚市場前に届けられた稚魚10^トを運搬用いけすに移した後、養殖用いけすに運ぶ作業を繰り返しました。新たな漁業収入の柱として、各方面から期待が寄せられます。

トラウトサーモンの海面養殖が始動 山田湾内いけすに稚魚10^ト投入



投入されたトラウトサーモンの稚魚(体長約25^{センチ}、重さ約400^{グラム})